HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第52号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Issue Date	2014-05-01
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73605
Type	periodical
Note	事務局: 北海道大学附属図書館; http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
File Information	DRFmonthly_52.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

月刊 DRF
Digital Repository Federation Monthly

第52号
No.52 May, 2014

【特集】新参加機関からのメッセージ
【連載】今そこにあるオープンアクセス

新参加機関からのメッセージ

星薬科大学学術情報リポジトリ：Stella

http://www.hoshi.ac.jp/home/library/（図書館HP）

星薬科大学学術情報リポジトリは2014年9月の公開を目指して現在準備中です。昨年の学位規則改正に背中を押されるかたちでスタートしました。先ずは本学の紀要２タイトルの電子化を進めているところです。準備に当たっては、DRF wiki に掲載の様々な資料、DRFワークショップに助けられてここまで来ました。今後ともよろしくお願いします。

（リポジトリの名称“Stella”はラテン語で「星」を意味します。）

大東文化大学機関リポジトリ

http://opac.daito.ac.jp/portal/

大東文化大学機関リポジトリは2014年2月10日に公開されました。できたてのほやほや、湯気が立ち上っているようなリポジトリと言えましょう。現在約2300編の本学紀要類掲載論文を公開しており、以後紀要類最新号や博士論文の公開を行っていく予定です。

構築の経緯といたしましては、担当主体は館長を中心に図書館内に立ち上げたワーキンググループです。リポジトリ構築の趣意書を作成し学内のコンセンサスを得て後運用規程を作り、主にコンテンツの執筆者となる教員の周知を図るため各学部の教授会に諮問しました。構築に際し、学内諸手続きをきちんと踏むことに意を用いました。今後は著作権の帰属状況に細心の注意を払いながらも、本学の独自性が出せるようなコンテンツ充実化を図って参ります。この度DRFに加盟し、国際的な学術交流の列に本学も加えていただけたことを光栄に感じております。今後ともよろしくお願いします。

京都橘大学 学術情報リポジトリ

https://tachibana.repo.nii.ac.jp/

京都橘大学学術情報リポジトリは、2014年4月7日から国立情報学研究所のJAIRO Cloudを活用させていただき公開しました。公開にあたりましては、国立情報学研究所のIR担当の皆様方に大変お世話になるとともに、講習会ではDRFからの派遣講師の方々に多くのことをご教授いただきました。この場を借りてあらためて感謝申し上げます。

本学の学術情報リポジトリは、当面は本学の紀要および博士論文の公開としておりますが、今後は学術情報のみならず、教育情報などにも徐々にその幅を広げていくような取り組みが行えればと考えております。

DRFの皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

今そこにあるオープンアクセス
Clear and present Open Access

栗山正光
首都大学東京学術情報基盤センター教授
デジタルリポジトリ連合アドバイザー
【ReaD & Researchmap】http://researchmap.jp/read0195462

第6回　インタビュー・ウィズ・ポインダー
Interview with Richard Poynder.

リチャード・ポインダーと言えば、かねてからOA関係者へのインタビューで有名だったが、昨年「オープンアクセスの状況(The State of Open Access)」というシリーズを開始し、7月1日の古生物学者マイク・テイラーを皮切りに12月23日の歴史学者ロビン・オズボーンまで、なんと半年で19人もの研究者、図書館員、OA活動家、出版者などへのインタビューを敢行して次々とブログに掲載した（正直なところ筆者も一部しか読んでいない）。

そして、今年3月、シリーズの最後を飾る20人目として選ばれたのは、なんとポインダー自身だった。何人もの人から自分自身の見解を示すよう勧められ、最初、自分はOA運動の参加者ではなく観察者なのだからと否定的だったのだが、やはり透明性、開放性の観点からインタビューを受けることにしたとのことである。聞き手はビヨルン・ブレムズという神経生物学者で、彼自身も第2世代のOA擁護者として先にポインダーのインタビューを受けている。

A4で28ページにおよぶインタビューの全貌をここで要約することはとても無理だが、ポインダーが強く指摘しているのはOA推進論者間の連携の欠如である。重複したプロジェクトが立ち上げられ、そもそもOAの定義についてさえ論争が続き、混乱している。出版社側はこれに乗じて、自分たちに有利なように政策を誘導している（フィンチ・レポートに見られるように）。

すなわち、彼はゴールド路線に批判的であり、グリーン支持派である。ただし、OAは学術出版改革とは無関係であるという主張には与せず、研究成果共有のあり方を再構築する機会を逸するのは大きな間違いだとする。また、OAはアクセスの問題だけでなく適正価格(affordability)の問題も解決すべきだと論じ、高額の論文処理費用(APC)が助成金から支払われる状況に疑問を呈する。そして最後に、「歴史は勝者によって書かれる」というベンヤミンの言葉に触れ、次のように締めくくる。

OAの歴史が書かれるとき、高邁な人々のグループが出版社の激しい抵抗を受けながらも有料の壁を突き崩したとなるのか、それとも革新的な出版業界がデジタル・ネットワークを活用して無料化を果たしたとなるのか、それはどちらがOA戦争に勝利したかによる。

しかし（と彼は続ける）、どちらが勝利するにせよ、OAが実現することだけは確かなようだ！

念のため、ポインダーのインタビューはこれで終りではない。4月5日には、再び聞き手に戻って、カリフォルニア大学発の電子出版社ビープレス(bepress)社長への一問一答を発表している。今後も活躍が期待できそうである。

◆訂正とお詫び◆

過去の本連載記事で「ハゲタカ出版社リスト」のJeffrey Beallをジェフリー・ベルと表記してきましたが、より原音に近いジェフリー・ビールに訂正させていただきます。Beallの発音については、Pronounce Names、inogolo、GenForum、Wikipediaなどのウェブサイトにより「ベル」だと判断したのですが、最近、YouTubeで本人が「ビール」と発音しているビデオを見つけました。確認不足を謹んでお詫びいたします。

次号予告：DRF平成26年度体制紹介

月刊DRFでは、皆さまからのお便りをお待ちしています。
gekkandrf@gmail.com

読者アンケートにご協力ください。
http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf_inq.html

http://www.facebook.com/DigitalRepositoryFederation

編集後記
DRF運営委員会が改選され、企画WGも入れ替わりがありました。次回詳しくご紹介します。
（三松）

月刊DRF第52号　平成26年5月1日 発行　デジタルリポジトリ連合 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?月刊DRF